

第 22 回地域連携手帳委員会（略称：手帳委員会）

日時 平成 27 年 10 月 15 日(木) 13 時 30 分～

1. 連携手帳の現状と問題点

- ・運用している冊数 4500 冊 在庫 400 部あり
- ・現状では特になし

2. 連携手帳の発展的利用

- ・栄養内容 退院後、サマリーを挟んでいる
- ・嚥下に関する項目 食べさせ方等の情報をどのように記載するか
刻み食・とろみ食といっても、施設によって対応に違いが出る。食事時の体勢、角度についても具体的な内容の記載が必要であり、検討すべき内容である。
- ・薬局 お薬手帳にて情報を得ている
連携手帳を出される人はまだ少ない
各サービス事業所では、薬局へ提出することは伝えていなかった。
サービス担当者会議に薬局の参加があまりないとの意見があったが、受診されている薬局によって担当する薬局が違い、参加には主治医への同意・ご家族との契約が必要となる。
かかりつけ薬局となれば参加できるようになるとのこと。

3. 新潟市の「むすびあい手帳」への移行に向けて

- ・ページの補充方法 新潟市 HP よりダウンロードし、印字して利用する。
- ・シート 8 診療経過記入欄が少ないのではないだろうかとの意見あり。
(かかりつけ医・ 用紙の追加は構わないとのことより、地域連携手帳様式 2-
専門医の経過記録) 2 を必要に応じて追加し利用することとした。
- ・連絡を取り合う項目 項目が少ないという意見あり。
必要に応じて地域連携手帳式 1-3（コミュニケーション欄）
を活用していく。

・運用の仕方

新潟市ではケアマネ発信とし、使用上の説明、配布を地域包括支援センターが行う。現在の秋葉区では各事業所ごとに配布され、サービス利用時に提供される。今後、新潟市の活用方法と統一して行うのか、検討が必要となる。

4. その他

次回手帳委員会

平成27年12月17日（木）午後1時30分から

新津医療センター病院大会議室

第22回地域連携手帳委員会（略称：手帳委員会）

平成27年10月15日

1. 連携手帳の現状と問題点

2. 連携手帳の発展的利用

3. 新潟市「むすびあい手帳」への移行に向けて

4. その他

次回手帳委員会

平成27年12月17日（木）午後1時30分から

新津医療センター病院大会議室